

2017 年度北米社会科教師招聘プログラム

期 間：	2017 年 6 月 26 日（月）～7 月 5 日（水）	
参 加 者：	ダニエル・ポイヤー ベリンダ・キャンブレ ヘイリー・フランカ アンドリュー・ハートマン ジョエル・ヒンリックス ジャックリー・カツ ジョシュア・ケリヘルア M・ケイト・サター ザカリー・テイラー サラ・ヴァン・ナイズ	ミシガン州 モーリースタンウッド中学校 ルイジアナ州 ルイジアナ州立大学エバースティン校 カリフォルニア州 セントラルバレー高校 ウィスコンシン州 ミドルトン高校 コネチカット州 ブランフォード高校 マサチューセッツ州 ウェルズリー高校 フロリダ州オーランド市 レイク・ノナ高校 ミズーリ州レバノン市 レバノン高校 アラバマ州 コモドア・ジョン・ロジャーズ中学校 カリフォルニア州 ビットメドウス高校
コーディネーター：	別所達也	経済広報センター国際広報部主任研究員

経済広報センターでは、国際相互理解促進の観点から 1980 年以降、米国、カナダの中学・高校教師を対象とした招聘事業を実施。日本の教員・生徒との交流や企業訪問等の機会を提供するとともに、帰国後、日本での体験を授業等で積極的に活用することを奨励している。プログラム参加者は、これまでに約 700 名に及び、今年も 6 月 26 日から 7 月 5 日にかけて、ミシガン州、ルイジアナ州、カリフォルニア州等から 10 名が来日した。



一行はまず、都立小石川中等教育学校、目白研心中学校・高等学校、三重県立四日市高等学校を訪問。北米の地理や歴史などについて、各校の生徒に対し直接指導を行った。生徒からは「北米の先生の授業を経験し、刺激になった」「海外留学の希望がより強くなった」といった声が寄せられた。また、学校側からは「今回の受け入れを機会に、米国の学校との共同プロジェクトを考えたい」といった考えも示された。

加えて、ソニー、ベネッセホールディングス、JR 東日本を訪問し、各社の施設見学を行うとともに、米国等における事業活動の状況や日本におけるサービス事業の取り組みなどについて説明を聞き、意見交換を行った。

最終日には、招聘事業の一環として、「日米関係と人的交流」と題するシンポジウムが開催された。外務省の高羽陽北米局北米第二課長、米国大使館のアーサー上席商務官、日本マイクロソフトのマケラ執行役員とともに、同会合に参加したミシガン州のポイヤー教諭は、日本の中学生・高校生との交流・対話の経験を踏まえて、「日米の教育は制度や中身は異なるが、それぞれの良い点を取り入れつつ、米国の若者の対日理解の促進に努めていきたい」と発言した。

以上